

事及び弁護士試験の登第者氏名発表せらるるや中央大学出身者判検事に於て拾九名弁護士に於て参拾八名あり即ち前者は過半数を占め後者亦三分の一を過ぐ殊に未だ三学年に在学中にして登第せし者五名を出したるは学風の質実剛健学生の勤勉なる証左にして他校の追隨を許さざる所母校の爲め大慶に堪えざるなり此の名誉ある中央大学に学ひたる我等一堂に会して登第の喜びを分ち且つ母校に対する謝恩の微意を表明せん事を期し十月九日午後五時本郷燕楽軒に於て謝恩の宴を催したり風雨烈しかりしに拘はらず定刻参会する者三十余名同窓の懐しさに古きも新らしきも歎ひ談して和氣霽室中春光流るる如く窓外風雨烈しくなりしを氣付くものなかりき六時宴を開き進んで「デザートコース」に入るや森清君登第者一同を代表して謝恩の辞を述べ是れに対して大学理事馬場鏝一博士及び講師林頼三郎博士謝辞を述らる馬場博士は謝辞に加へて我等の最も敬愛せる學員の一人林博士の努力を述へて小成に安んせざるやふ懇懇注意せられ林博士亦登第者の将来に関して諄諄として訓諭せらる續いて登第者各自順次起立して氏名生国受験の動機受験中の感想将来の方針等を述べ医師にして司法官に登第せしあり現在下士にして弁護士に登第せしあり実業界より転し来たりたるあり苦学力行の士亦尠からず百人百態の経歴談は誠に興味深かりき理事佐藤正之氏の発声にて列席者の成功の爲め且つは大学の隆盛の爲め一同乾盃宴を撤したるは午後九時別席に移りて謝恩の具体的方法及び登第者の会合に関して協議をなし細則の作成を三名の幹事を選び一任して散会したり出席者来賓は林講師、馬場、佐

676 国家試験登第者謝恩会

〔『法学新報』第31卷11(359)号 大正10年11月7日〕

○国家試験登第者謝恩会 去る九月二十九日本年度第一次判検

藤岡理事、天野教務主任の四氏、登第者側にては榎林八十八、森龜雄、増山款、江幡清、森清、松原左武郎、手代木隆吉、山本茂雄、木村利夫、笠原正史、徳永平次、小松崎広嗣、伊藤佐一、竹井小野右衛門、金用茂、原玉重、志邨守義、新井小一郎、橋本正男、松下宏、森武喜、山田半藏、江波戸文夫、團野基十、新田法教、林飛隆善、渡邊甕男の諸氏なりき、(橋本生記)